

小学校 第6学年 国語科 学習指導案

群馬大学
准教授 河内 昭浩

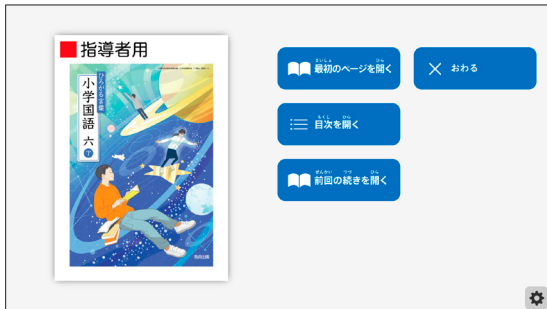
単元名 登場人物の変化を読み、自分の考えをまとめよう——『きつねの窓』(8時間)

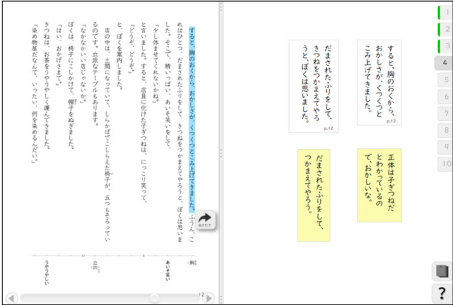
単元のねらい 語彙の理解を深めながら『きつねの窓』を読み、登場人物の心情の変化や物語の全体像を捉えるとともに、ファンタジーの構造に基づき、「窓」について自分なりに想像したことをまとめることができる。

本時のねらい 子ぎつねに対する「ぼく」の心情をまとめ、「ぼく」の心情の変化を捉えることができる。(第2時)

指導時期 11月～12月

本時(第2時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	●「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	
	本時の課題を知る。 ●前時の学び(登場人物やあらすじの把握)を振り返り、本時の学び(心情の変化の捉え)を確認する。	「朗読」等の活用 ●前時を想起させるために、冒頭から子ぎつねが現れる直前(「と、その時」の前まで)を「朗読」を活用して読む。  ●「本文」「さし絵」「写真資料」を活用しながら、登場人物や全体のあらすじを確認する。  

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	「ぼく」の子ぎつねに対する行動・気持ちがわかる表現を抜き出し、その時の心情を考える。 ①教師の手本を見る。 ②個人で1ページずつ、行動・気持ちの抜き出しと心情の書き込みを行う。 ③ペアもしくはグループで記述内容を話し合う。 ④全体交流で確認する。	「デジタルメモ」の活用 「デジタルメモ」を開き、行動・気持ちを「抜き出す」機能を用いて抜き出す。抜き出した行動・気持ちの下に「短冊」を用いて考えた心情を書き込む。 - 教室の大画面を用いて、まず教師が「デジタルメモ」の「短冊」を使って見せる。 「短冊」の色を変更して、心情の変化を表現してもよい。また時間があれば、気持ちの変化の分岐点(クライマックス)について話し合い、「ペン・マーカー」で印をつけるとよい。 
まとめ	本時を振り返る。 - ノートに本時の振り返りを記入する。 - 振り返りを共有し、次時の学びを知る。	- 振り返りの内容を挙手で発表させる。 - 次時に、抜き出した行動・気持ちと心情の書き込みを、デジタルメモの「たしかめよう」に整理することを伝える。

指導者用デジタル教科書(教材) 活用の実際

児童の反応例

「デジタルメモ」を用いた「ぼく」の子ぎつねに対する行動・気持ちの抜き出しについて

- 「見つけた」「会った」といった動作を表す言葉を見つけられるとよいのだな。
- 「ほしいなあ」などの会話文だけでなく、「いけない」のように気持ちの書かれた場所があるな。
- 「デジタルメモ」を使うと、本文を書くための時間を省略できてよいな。

「短冊」を用いた「ぼく」の心情の記述について

- 心情を書くのは難しいな。でも「短冊」に一言書くだけでもよいと言われたので気持ちが楽になったな。
- 書きたいことがたくさんあるな。「短冊」を足してもよいと言われたのでどんどん書こう。

指導者用デジタル教科書(教材) 活用の効果

国語の学習においては、デジタルであれ紙であれ、本文の一語、一文を丁寧に読み、本文の記述をもとに場面や心情について考えるということを学習者に徹底させる必要がある。指導者においても同様である。機器の操作に追われ、本文そのものへの着目がおろそかにならないようにしたい。そのためにも、日常的に用いて指導者自身がデジタル教科書・教材を使い慣れるようにしたい。

デジタル教科書・教材をはじめICT活用は、今日求められている「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に資するものである必要がある。「学習者用デジタル教科書+デジタル教材」は、主に「協働的な学び」に資するものである。したがって「指導者用デジタル教科書(教材)」は、「個別最適な学び」に資するものとして活用できるとよい。以下に、「個別最適な学び」における「指導の個別化」と「学習の個性化」について、「本時」における「指導者用デジタル教科書(教材)」の効果をもとにそれぞれ整理する。

指導の個別化

本時においては、「朗読」を前時の学習の確認のために用いている。学習者の音読に委ねた場合、音読の速度や個別の対応に迫られ、往々にして前時の確認以上の時間を要してしまうことがある。一斉に「朗読」を用いることで、時間を統一しつつ短縮することができる。「本文」「さし絵」「写真資料」も同様である。

また「デジタルメモ」を活用することで、本文の該当部分をスムーズに抜き出すことができる。この学習で求めているのは、「ぼく」の子ぎつねに対する行動・気持ちの書かれた記述を的確に捉えることである。本文の抜き出しを書字で行う場合、学習者によっては書字そのものへの負担が大きく、そのためにねらいが達成できないこともある。「デジタルメモ」を用いることで、そうした負担を軽減できる。

学習の個性化

「短冊」は、行動・気持ちの記述に見られる「ぼく」の心情を捉えるために用いている。ここにおいては記述量に差が出てよい。「短冊」は各自の記述量に合わせて大きさを調整できる。学習者によっては複数の「短冊」の使用も許可してよい。「ふりかえりシート」も同様である。書きたい学習者の意欲を満たすことで、さらなる「学習の個性化」につながれるとよい。